2025 年度
神奈川歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）
学生募集要項

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

目　次

建学の精神・教育理念・研究理念・教育目的・
教育目標 …… 1
学生受け入れ方針 …… 2
学位授与方針・教育実施方針 …… 3
神奈川歯科大学大学院歯学研究科概要 …… 5
安全保障輸出管理について …… 7
神奈川歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）
学生募集を行う教員紹介 …… 9
2025 年度学生募集要項 …… 33
資格認定審査 …… 36
出願手続きについて …… 38
入学手続きについて …… 40
出願書類 …… 41

個人情報の保護について

本大学院では、個人情報保護の重要性を認識し、個人情報の取り扱いに万全を期しております。また、以下の基準で取り扱います。

1．入学者選抜試験担当部署の長を管理責任者として内規に従い、管理・保管いたします。
2．収集した個人情報は、本学の入学者選抜、入学後の学籍管理等業務、入学者選抜方法にかかる調査・研究およびこれらに関連する業務のために利用いたします。
3．出願に関する書類は、保存期間経過後は、適切に廃棄処分いたします。

＊出願の際は、上記の個人情報に関する項目に同意された上で出願してください。

建学の精神

全てのものに対する慈しみの心と生命を大切にする「愛の精神」の実践

教 育 理 念

学をまなび、技を習い、人を識る愛の教育

研 究 理 念

歯科医学の研究を通じて、新たな価値の創出に取り組み、生活の革新・文化の向上・未来への期待に貢献することで、「愛の精神」の実現を目指す。

教 育 目 的

大学院歯学研究科は学則第一条に基づき、歯学部における教育の上に、さらに専攻分野について、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、もって文化の向上と社会福祉の増進に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

教 育 目 標

① 研究と臨床に必要な諸規則を熟知し応用する能力を醸成する。
② 研究成果を広くパブリケーションすることができる能力を醸成する。
③ 臨床的課題を発見する能力の育成と多様な研究方法論や研究 data の取り扱いを理解し実践する能力を醸成する。
④ 歯学専門領域における柔軟かつ俯瞰的な判断ができるマネージメント能力を醸成する。
⑤ 地域における歯科的課題解決を世界の動向を視野に入れて検討できるグローバルな思考能力を醸成する。

学生受け入れ方針（アドミッションポリシー）

本学歯学研究科には、「自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、もって文化の向上と社会福祉の増進に貢献する人材を養成することを目的とする」という教育目的があります。この教育目的にある文化の向上と社会福祉の増進を実現するために、いま、歯科界は次の大きな６つの課題を解決する必要があります。

それは、

① 超高齢社会は、全身疾患との関連を重視した高度な歯科医療の充実が必要であり、摂食嚥下を含め全身管理に造詣の深い高度な専門性を有する歯科医師および研究者が不足している。

② 近年歯科医学も専門分科が進み高度化した半面、総合的な視点として小児から高齢者を取り扱うライフコースに基づく一貫した歯科医療の観点が失われていると同時に、包括的ケアを含めて総合化できる歯科医師および研究者が不足している。

③ 災害の頻発に対する災害医療歯科学の推進と災害時迅速に対応できる指導的な歯科医師および研究者が不足している。

④ 増加を示す口腔癌に対する歯科医療の高度化が必要であり、腫瘍学に対する造詣の深い高度な専門性を有する歯科医師が不足している。

⑤ 口腔と全身の関連の科学的解明を進展させる必要があり、基礎研究の充実と臨床応用できる臨床研究を主とする歯学教育・研究者が不足している。

⑥ 感染症の対策に造詣が深く、感染管理に関する正しい情報の発信や研究の推進をはかる歯科医師および研究者が不足している。

これらの６つの課題を解決できる人材の養成は、今後の歯科医療を進展させ、教育目的の実現に寄与するものです。

すなわち、本学歯学研究科では、この６つの課題に共鳴し、確固たる目的意識を持ち、課題探究心や学習意欲が旺盛で、自立心とともに高い責任感があり、最新の臨床研究能力を身につけたいと考えている人材を求めています。

高度な臨床研究能力を備えた人材とは、倫理観が高く、課題解決のためのマネージメント能力があり、研究内容に対する公表力が俯瞰的で優れている必要があります。近年では、グローバル化の視点も重要です。また、歯科臨床の中にこそ課題解決の糸口があることから歯科臨床に対する意欲的な取り組みが求められます。

そのための教育としてコースワーク・リサーチワーク・クリニカルワークが系統的に行われます。この教育を受けるには、歯学におけるしっかりとした基礎的な学力、英語に対する受容性、課題に対して正確に解釈する能力、さらに研究を続ける胆力と責任感が備わっている必要があります。

そこで、本学の入試では、英語読解、面接による人物評価と口頭試問、専門分野に対する基礎的な知識に関する試験を行います。特に面接を重視し、課題に対する柔軟で正しい解釈ができる能力があるかを質問し評価します。

学位授与方針（ディプロマポリシー）

全ての教育課程を修了し、教育目標に相応しい成果が認められ、高度専門職としての豊かな学識を有すると判定された者、つまり下記のディプロマポリシーが身についているかを学位論文の審査及び最終試験を通して最終確認された者に博士（歯学）を授与する。

① 高い倫理観を持ち、研究と臨床に必要な諸規則を熟知し応用する能力を身につけている。
② 歯学専門領域における臨床的課題を発見する能力の育成と同時に課題解決のために、多様な研究方法論を理解し実践する能力を身につけている。
③ 普遍性のある研究成果を広くパブリケーションすることができる能力を身につけている。
④ 歯学専門領域を横断する幅広い知識に裏打ちされた柔軟かつ俯瞰的な判断ができるマネージメント能力を身につけている。
⑤ 地域における医療の歯科的課題解決を世界の動向を視野に入れて検討できるグローバルな思考能力を身につけている。

教育実施方針（カリキュラムポリシー）

当該歯学専攻では、自立した研究能力を備えた主に高度な専門性を有する歯科医師および研究者を養成するという人材養成目的に適う教育課程の編成を行う。特にコースワークの充実として共通必修講義・演習を 6 科目配置すると同時にコースワーク（講義・実習・演習）からリサーチワーク（研究・論文作成）の有機的な連携を考慮して編成した。さらに臨床歯学を体得するためのクリニカルワーク（臨床研修）を行い、課程制大学院制度の趣旨に準拠して体系的な教育課程を編成した。具体的な編成方針（カリキュラムポリシー）として、

① 指導的な歯科医師および研究者に必要な倫理規範を教育し、高い倫理観を備えた人材を育成するための教育を行う。
② 歯学研究領域おける高度な専門的知識・技能・態度を教育し、学術面で指導的な人材を育成するための教育を行う。
③ 研究成果を公表する手法を教育し、高いパブリケーション能力を育成するための教育を行う。
④ 研究過程において生じるあらゆるデータ（以下「研究データ」という）を適切に管理・保存・運用するための教育を行う。研究データの管理は優れた研究を行う上で必要不可欠であるという認識を醸成する。
⑤ 課題に対して柔軟かつ俯瞰的な考え方の基本を教育し、高いマネージメント能力を育成するための教育を行う。
⑥ 国際化に対応した語学力や国際的な活動の基本を教育しグローバルに活躍できる能力を育成するための教育を行う。

上記のカリキュラムポリシーと伴に指導方針として、小人数の利点を生かし、コースワークにおける講義は、議論を積極的に取り入れた双方向型の授業を展開する。さらに実習もマンツーマンで行い、密な指導により実践力を養う。演習は、複数分野の教員により行うことで俯瞰的な能力を身につけさせるよう演習課題を設定する。これらのコースワークにより研究を進める基盤を養い、研究を行うための計画立案とその実践であるリサーチワークを行い論文作成へとつなげる。さらに、クリニカルワークは、各専門分野別に臨床研修を行うが、症例を用いて歯学専門分野の理解を深めるよう指導することで、リサーチワークにおける研究能力の充実を図る。

神奈川歯科大学大学院歯学研究科概要

趣　　旨

本大学院は歯学部および医療系専門教育機関における教育の上に、高度な専門知識・技能を身につけ、さらに専攻分野について、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、もって文化の向上と社会福祉の増進に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

○一般入試（本科）について

〔一般選抜について〕

・本要項33ページ一般選抜（本科）の出願資格を満たしている受験希望者が対象です。

〔学内推薦選抜試験について〕

・神奈川歯科大学（以下、本学）を卒業した者で、一般選抜（本科）の資格と伴に、アドミッションポリシーを理解し、専願での受験となります。※学長の推薦書が必要です。

※学内推薦選抜試験を希望する者は、希望する教授に申し出てください（但し、本要項 9 ページ～で募集を行っている教授のみ)。
詳細は、本要項 33 ページをご確認ください。

〔特待生選抜試験について〕

・一般選抜の資格とともに3年での修了を目指し、本大学院を専願での受験となります。
※学長の推薦書が必要です。
・授業料の減免対象者は、本試験成績において優秀な成績を収め総合評価において本学の基準を満たした上位1名（全額免除）と、次点の若干名(半額免除)です。
・希望者は、同日に実施する一般入試（本科）の一般選抜試験も受験できます（詳細は、本要項33ページ～をご確認ください）。

※本学を卒業した者

特待生選抜試験を希望する者は、希望する教授に申し出てください（但し、本要項 9 ページ～で募集を行っている教授のみ)。
詳細は、本要項 34 ページ～をご確認ください。

〔外国人留学生選抜試験について〕

・一般選抜の資格と伴に、日本国以外の国籍を持つ者。

○社会人入試について

本大学院は、現在歯学に携わっている各方面の社会人の再教育に対する地域社会のニーズに応え、歯学の進歩と社会福祉の向上に資するため、一般入学者の選抜方法のほかに社会人の特別選抜を実施し、入学者の多様化を図ることとしている（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第14条に定める教育方法の特例）。

※本要項34ページ「社会人特別選抜」の出願資格をご確認ください。

修業年限

博士課程　4年

履修方法

本大学院に4年以上在学して、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けなければならない。

長期履修制度（社会人大学院）

この制度は、職業を有しているなどの事情により標準修業年限（4年）での履修が困難となる方を対象に、標準修業年限を超えて長期にわたり計画的に教育課程を履修することを認める制度です（指導教授と相談の上、入学手続き期間に必要書類を添えて当該研究科長に申請するものとする）。

学位授与

本大学院に4年以上在学して、所定の単位を修得し、コースワーク到達試験に合格と必要な研究指導を受け、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に博士（歯学）の学位を授与する。ただし、在学期間に関して優れた研究業績をあげたと認められた者については、3年以上在学すれば足りるものとする**（社会人大学院生は除く）**。

専　　攻

歯学専攻

＊平成29年度より、これまでの歯科基礎系、歯科臨床系の2専攻を歯学専攻に改めました。

大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第14条に定める教育方法の特例について

本学歯学研究科では、平成12年より大学院設置基準第14条「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」という規定を導入して教育方法の特例を実施している。この特例により、社会人学生は、それぞれのテーマに応じ、指導教員と協議の上、通常の時間帯における授業のほか、夜間その他特定の時間又は時期における授業による単位取得の便宜を受けるとともに研究を継続させ、博士論文を作成することになる。

受験に際し、配慮を必要とする受験生の方へ

障害等により受験の際、事前配慮を必要とする場合は出願前に大学院教育研究部（046-822-8826）までご連絡ください。

安全保障輸出管理について

本大学院では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、外国人留学生等の受け入れに際し厳格な審査を行っています。規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

受験を希望される外国人の方は、出願前に別途手続きが必要になる場合がありますので、出願開始日より前に希望する教授または大学院教育研究部（graduate@kdu.ac.jp）へお問合せください。

なお、入学者には、安全保障輸出管理に係わる誓約書に署名して頂きます。

大学院での履修方法などについては下記の入学アドバイザーがアドバイスをいたします。お気軽にお問合せください。

猿田　樹理	教　授	saruta@kdu.ac.jp
西久保　周一	教　授	nishikubo@kdu.ac.jp
半田　慶介	教　授	handa@kdu.ac.jp

入試説明会・相談会日程

2024年10月 3日　木曜日　18:00　神奈川歯科大学　横須賀キャンパス

10月24日　木曜日　18:00　神奈川歯科大学　横浜キャンパス

＊参加ご希望の方は、前日までにメール等で大学院教育研究部へお申込みください。

変更等がある場合は、本大学院ホームページ（https://graduate.kdu.ac.jp/）にてお知らせいたします。

大学院教育研究部

Tel：046-822-8826(直通) 平日 9:00～ 17:00 迄

E-mail:graduate@kdu.ac.jp

神奈川歯科大学

大学院歯学研究科（博士課程）

学生募集を行う教員紹介

教育学分野（Department of Dental Education）

指導教授：板宮　朋基（Tomoki Itamiya）	大学院教員等

研究プロフィール

神奈川歯科大学大学院 XR 研究所所長
日本シミュレーション外科学会理事
日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会理事
芸術科学会理事・論文委員・会誌「DiVA」編集長
災害情報学会論文誌編集委員
システム・アプリ関連の成立(登録)済み特許 4 件

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

VR(バーチャルリアリティ)と AR(拡張現実)の総称である XR 技術の基礎を学び、歯科医学・歯科医療に応用できるシステムを立案し、アプリを自身で開発できるようになる。アプリの評価を行い、成果を論文投稿できるようになる。

座学で基礎理論や最新の応用事例を学修した後、最新のデバイスの数々を体験する。各自の PC に開発用ソフトウェア(Unity 等)をインストールし、XR 用アプリの開発方法の基礎を習得する。各自が開発したプロトタイプアプリを最新のデバイス上で実行し、履修者同士が体験し合う。歯科医学教育や臨床における活用を目指してブラッシュアップを行う。倫理申請を経て、歯学部や附属病院において学生や歯科医師を対象にした評価を実施する。論文など学術的な成果に加えて、特許取得や企業と協業した製品化・商品化を目指す。

研究内容

- **裸眼立体視と力触覚技術を併用した遠隔歯科補綴学実習システムの開発**

ゴーグルなどのデバイスを装着せず高精細な立体視が可能な空間再現ディスプレイと触覚再現デバイスを併用し、リアルな 3D-CG で再現された口腔内の歯牙を手指の動きでバーチャル器具を操作して切削できるシステムを開発している。切削時の感触もリアルに手元に伝わる。

- **裸眼立体視と力触覚技術を併用した歯磨き教育支援システムの開発**

口腔内スキャナーで取得した患者さんの口腔内 3D-CG モデルを裸眼立体視表示させ、実際のブラッシング操作を様々な視点からリアルタイムに確認できるシステムを開発している。磨き残しの範囲を数値で定量的に示せるため、指導に有用であることが示唆されている。

- **VR180 立体映像を用いた実習支援システム**

8K の高解像度で立体映像が撮影できる CANON VR システムを活用し、実習の全過程を自動撮影して HMD などで疑似体験できるシステムを開発し、教育に実用している。

社会人に対しての特記事項

近年発展が著しい VR/AR 技術と具体的なアプリ開発方法を体系的に学修でき、皆さんの研究や将来の進路に活かすことができるようになります。XR の歯科分野での応用についての事例はまだ多くないため、新規性の宝庫で論文化しやすいです。Microsoft HoloLens2、Meta Quest Pro、ソニー空間再現ディスプレイ ELF-SR1/2、Acer Spatial Labs、nubia Pad 3D など最新機材を複数用意しています。ソニーなど大手企業とのコラボレーションも盛んで、研究開発に加えて起業を視野に入れた社会実装の経験を積むこともできます。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

解剖学分野（Department of Anatomy）

指導教授：天野カオリ（Kaori Amano）	大学院教員等

研究プロフィール

日本解剖学会評議員
歯科基礎医学会評議員
日本唾液腺学会評議員
日本唾液腺学会奨励賞基礎的研究分野選考委員
死体解剖資格認定第 8499 号

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、研究者として必要な知識とスキルを身につけて、修了後はそのスキルを活かして各方面で活躍できる人材を養成することを目的とする。

指導方法

・論文の読解力を養うために 1 年目は研究内容に関連する欧文和文論文検索と読み込みを中心に行う。
・肉眼形態研究に必要な手法（倫理書類申請について/パラフィン切片作成法/凍結切片作成法/走査型電子顕微鏡試料作製法/SEM 撮影方法）と動物実験/免疫組織学的観察方法と免疫染色について学ぶ。
・学会などでのプレゼンテーション能力の養成。
・論文執筆（論文構成と組み立て方・執筆手順）について学ぶ。

研究内容

ヒト（ご遺体）を試料として使用する肉眼形態研究

・SMAS（顔面筋の浅層筋腱膜構造）の形態学的観察
・全身のリンパ節分布領域観察（有病者との比較）
・大唾液腺管の構造観察
・神経/血管/臓器のバリエーション（個体差）観察

動物実験

口腔組織の機械的刺激による細胞膜損傷と修復機構

・卵巣摘出歯周炎ラット組織の膜損傷機構エストロゲンの直接作用と禁忌因子について
・糖尿病ラットモデルに実験的歯周炎を併発した口腔組織の膜損傷と修復機構について

社会人に対しての特記事項

時間的制約の多い社会人には負担が大きいが、各学生の希望をできるだけ優先して博士取得を目標に修了できるよう最後まで丁寧に指導していく。

研究テーマの選定時は現職に関連する内容や、これまでの経歴を生かせるように学生の希望を考慮し、相談しながら研究課題を検討する。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

環境病理学分野（Department of Environmental Pathology）	
指導教授：槻木　恵一（Keiichi Tsukinoki）	大学院教員等
研究プロフィール 日本病理学会評議員 日本臨床口腔病理学会評議員・理事 日本歯科基礎医学会評議員 厚生労働省死体解剖資格認定第 7227 号 日本病理学会認定口腔病理専門医第 109 号 主な著書：　非侵襲的検体検査の最前線　監修	2 号教員 坂口　和歌子（Wakako Sakaguchi）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、研究者として最低限必要なスキルを身につけていただき、修了後も各界で様々な課題に対して対応でき活躍できる人材を養成することを目的としている。

特に、論文の読解力をつける、Active なプレゼンテーション能力の養成、論文の書き方というスキルと同時に課題を解決するための考え方のトレーニングをマンツーマンで行う。

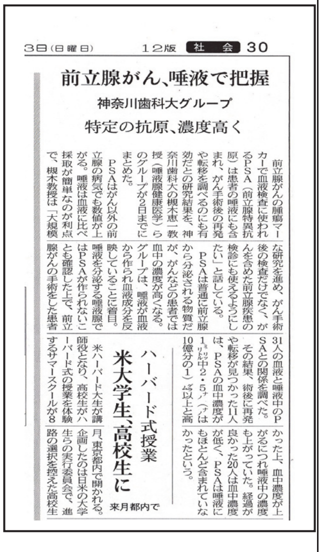
文章の書き方は、1 年次に学会発表のための和文抄録、2 年次または 3 年次（社会人）に神奈川歯学に投稿のための短報作成を通じて具体的に指導する。英文論文の書き方は、高学年で行う。尚、本分野では年 1 回 Core meeting として研究合宿を行い集中的な指導を行っている。

また、希望者には口腔病理診断のトレーニングも行うことが出来る。さらに、研究者として高いレベルでの研修を行いたい学生には、国内では東海大学医学部、慶応大学先端生命科学研究所、海外ではニューヨーク大学、メリーランド大学などへ派遣が可能である。

研究テーマは以下の項目から、相談により決定している。早くから、実験を行い自立して研究できるよう指導しており、本科生は早期修了を目指してほしい。

研究内容

- **唾液中の疾患マーカー探索による病態評価・診断法の開発**
  唾液中に含まれる特異的な物質を同定し、唾液による病勢の評価や診断への応用について検討し、新規唾液検査法の開発を目指している（右図参照）。
- **食事や運動要因による唾液 IgA の増加メカニズムの解明と歯科栄養指導への応用**
  唾液 IgA の増加が食事要因で生じることから、そのメカニズムを明らかにし、唾液力の増加を図り口腔環境を改善する宿主修飾療法を開発し、歯科栄養指導へと発展を目指している。
- **細菌感染によるヒト歯肉組織の反応性と歯周病重症度との関連**
  環境因子である口腔細菌が歯肉組織にどのような反応を引き出すか検討し、歯周病の進展メカニズムを検討している。
- **口腔病変の免疫組織化学解析による病理組織学的研究**



3日（日曜日）　12版　社会　30

前立腺がん、唾液で把握

神奈川歯科大グループ

特定の抗原、濃度高く

前立腺がんの腫瘍マーカーで血液検査に使われるPSA（前立腺特異抗原）は患者の唾液にも含まれ、がん手術後の再発や転移を調べるのにも有効だとの研究結果を、神奈川歯科大の槻木恵一教授（唾液腺健康医学）らのグループが2日までにまとめた。

PSAはがん以外の前立腺の病気でも数値が上がる。唾液は血液に比べ採取が簡単なのが利点で、槻木教授は「大規模な研究を進め、がん手術後の検査だけでなく、がんを含めた前立腺疾患の検診にも使えるようにしたい」と話している。

PSAは普通に前立腺から分泌される物質だが、がんなどの患者では血中の濃度が高くなる。グループは、唾液が血液から作られ血液成分を反映していることに着目。唾液を分泌する唾液腺ではPSAが作られないことも確認した上で、前立腺がんの手術をした患者31人の血液と唾液中のPSAとの関係を調べた。

その結果、術後に再発や転移が見つかった11人は、PSAの血中濃度が1ミリリットル中2・5ナノ（ナノは10億分の1）グラム以上と高かった上、血中濃度が上がるにつれ唾液中の濃度も上がっていた。経過が良かった20人は血中濃度が低く、PSAは唾液にもほとんど含まれていなかったという。

ハーバード式授業

米大学生、高校生に

来月都内で

米ハーバード大生が講師役となり、高校生がハーバード式の授業を体験するサマースクールが8月、東京都内で開かれる。企画したのは日米の大学生らの実行委員会で、進路の選択を控えた高校生

社会人に対しての特記事項

本分野では、実際に多数の教育プログラムがあることから、時間的制約の多い社会人には負担が大きいが、各学生の希望をできるだけ優先して修了できるよう最後まで丁寧に指導していく。特に現在の職種やこれまでの経歴を生かした研究テーマを選定するようにしているので、意欲ある社会人の入学を希望している。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

歯科薬理学分野（Department of Pharmacology）

指導教授：高橋　俊介（Shun-suke Takahashi）	大学院教員等
研究プロフィール 日本薬理学会学術評議員 日本微小循環学会理事 歯科基礎医学代議員 神奈川歯科大学学会理事 日本抗加齢医学会専門医第 2837 号	1 号教員 吉野　文彦（Fumihiko Yoshino） 2 号教員 高橋　聡子（Satoko Takahashi） 水野　潤造（Junzo Mizuno） 吉田　彩佳（Ayaka Yoshida）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

生活習慣病のような全身疾患と全身及び口腔循環調節との関連性を理解し、口腔内循環機能の重要性を認識できることを目標としています。

最初に生活習慣病のような疾患と全身及び口腔内循環との関連性を紹介し、口腔循環に関連した当研究室の成果や他の関連研究内容について理解・修得します。

青色光は歯科治療にとって既に欠かせない道具のひとつです。当分野では光の特性を理解し、安全な歯科治療を実践するために必要な基本的な光化学の理解を目標としています。加えて、現在治療で行われている光線力学療法の特性について理解できます。

光線力学療法の科学的根拠となる活性酸素・フリーラジカルについて理解し、これらを測定可能な電子スピン共鳴法やその他の測定方法を修得します。

研究内容

- **“口腔内環境の全身への影響”と“生活習慣病のような全身疾患の口腔内循環への影響”について研究**しています。近い将来、“体の健康状態”が“口腔内循環の変化”により評価できるようになるかもしれません。当分野の研究により、口腔内だけでなく全身の健康状態に眼を向けられる広い視野を身に付けて欲しいと考えています。

- **光線力学療法について研究**しています。具体的な方法論のみならず、これら方法の科学的根拠となる活性酸素・フリーラジカルについての詳細を学べる機会は多くありません。当分野は，国内においてこれらを測定可能な電子スピン共鳴装置を多く有しており、様々な疾病にも多く関与している活性酸素・フリーラジカルについて理解を深め、今後歯科医療にさらに必要となる青色光について多くを学んで欲しいと考えています。

社会人に対しての特記事項

募集なし

口腔生化学分野（Department of Oral Biochemistry）

指導教授：半田　慶介（Keisuke Handa）	大学院教員等
研究プロフィール 日本歯科保存学会評議員・専門医 日本再生歯科医学会評議員・理事・認定医 日本歯科理工学会・シニアアドバイザー 歯科基礎医学会評議委員	２号教員 居作　和人（Kazuto Izukuri） 佐藤　武則（Takenori Sato）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

口腔生化学分野では、歯槽骨再生に焦点を当てた再生療法の実用化研究を進めています。歯周病や根尖病変をターゲットとして間葉系幹細胞と足場材を組み合わせた新規の骨再生医療等製品を開発するため、炎症環境下における細胞機能評価や足場材の新規開発を目指しています。本分野では、研究を通した論理的思考や生体で起きている治癒や炎症に関わる細胞レベルでの生命現象の理解によって、日常臨床のみならず再生医療実施に必要な分子生物学的な知見や実用化にかかわる法規制の理解を身につけることを指導いたします。

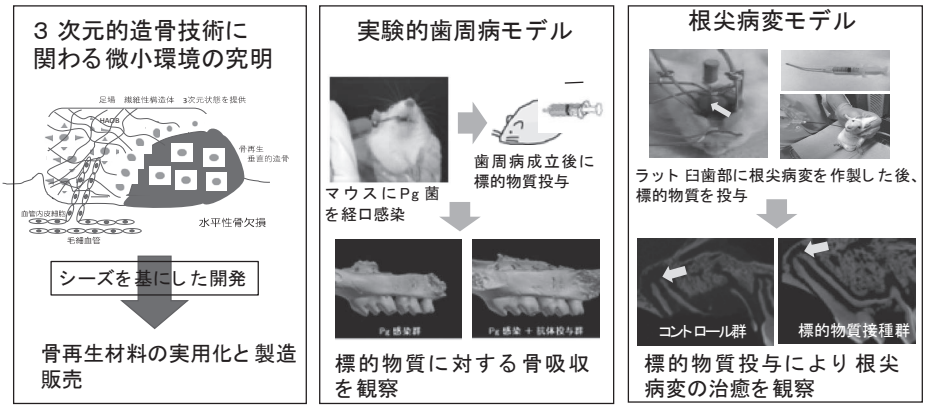
研究内容

➢ **３次元的な歯槽骨再生医療等製品の開発**

アンメットメディカルニーズである多数歯欠損による水平性骨欠損に対する細胞を用いた新規の骨再生医療等製品の開発を目指して、骨芽細胞の分化メカニズムの理解や立体的な骨造成が可能な足場材の新規開発をおこなっています。また既存の足場材の改良を含めた企業や他大学との共同研究も盛んに実施しています。

➢ **根尖病変、歯周病モデル動物を用いた歯槽骨再生のメカニズムの解明**

根尖病変や歯周病によって失われた歯槽骨を早期に回復できる新規材料の検索や骨再生過程の解明をおこなっています。



社会人に対しての特記事項

本分野は基礎分野であるが豊富な臨床経験を背景に、日常臨床で疑問に思うことや解決したいという欲求に応えることが可能です。臨床の現場（患者の声）を知ることが研究遂行にとって重要であることを認識し、主に細胞レベルで骨再生に関する基礎研究を行い、その成果を患者に届けたいと考えています。また実践する研究テーマは、現在の職種や専門性を考慮し、興味が持てる内容や個人の状況（通学可能な曜日や時間帯、頻度）に応じて選定いたします。在学期間中の学位取得を目標に、研究方法から論文作成、学位取得までお手伝いを行います。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔衛生学分野
(Department of Preventive Dentistry and Dental Public Health)

指導教授：山本　龍生（Tatsuo Yamamoto）	大学院教員等
研究プロフィール 日本口腔衛生学会理事長・代議員・指導医・専門医・認定医 社会歯科学会理事・評議員 日本歯科医療管理学会代議員 神奈川歯科大学学会理事・評議員 主な著書：ボケたくなければ「奥歯」は抜くな	2 号教員 入江　浩一郎（Koichiro Irie） 川村　和章（Kazuaki Kawamura） 宋　文群（Wengun Song） 渕田　慎也（Shinya Fuchida）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野の指導目標は、科学者として必要な問題を発見し解決する能力を身につけていただくことである。特に、人を対象とする研究（臨床研究や疫学研究）の計画立案から、実施、統計解析、学会発表および論文発表の全ての過程を、主体的に実施し、経験していただく。これらの経験を通じて、大学院の修了後も、科学的なものの見方、考え方を身につけて、問題発見、問題解決ができるようにする。

なお、人を対象とする研究を行うには、統計学の基本を理解し、様々な研究計画と分析方法を修得することが必須である。そのために、多変量解析を含めて様々な分析方法を理解し、研究計画との論理的な関連付けができるようになっていただく。

研究内容

本分野は、「一生自分の歯で食べられる社会」を実現するために、主に疫学の手法を用いて行っている。

- **健康の社会的決定要因に関する研究**

日本老年学的評価研究（高齢者の大規模追跡調査）に参加し、様々な分野の研究者や行政の担当者と連携して、歯科における健康格差や、健康の社会的決定要因について検討している。これまで歯数・口腔機能と認知症、転倒、要介護、抑うつなどとの関係を論文発表している。

- **職域における歯科保健活動の効果検証**

唾液を検体として 60 秒で歯周病のリスク判定を行う試験紙を開発し、「つまようじ法」という独自のブラッシング方法による保健指導を行う歯科保健プログラムを開発した。このプログラムを職域に導入し、その効果を医療経済的に検討している。

- **歯周病と糖尿病に関する研究**

全国臨床糖尿病医会と共同で、歯周病と糖尿病の関連についての研究を行っている。また、千葉県保険医協会と共同で、歯周病と糖尿病に関する医科歯科連携に関する政策的研究も行っている。

- **オーラルフレイルに関する研究**

神奈川県および神奈川県歯科医師会と共同で、オーラルフレイルに関する介入研究を行っている。また、県内の行政機関とも共同で研究を行っている。

社会人に対しての特記事項

本分野は、人を対象とする臨床研究や疫学研究が主体となることから、社会人が自宅で研究できる内容が多く含まれている。既に行政で業務に従事している社会人や、歯科医師会で地域歯科保健を担当する社会人が、自身のデータを用いて分析することも奨めている。本分野は、日本口腔衛生学会の歯科公衆衛生専門医の研修機関にも認定されており、歯科公衆衛生専門医を取得することも可能である。社会人が科学的根拠に基づく政策を展開するために入学を希望する社会人を歓迎する。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

災害歯科学分野（Department of Disaster Related Oral Health）

指導教授：李　昌一（Masaichi Lee）	大学院教員等
研究プロフィール 日本酸化ストレス学会副理事長、日本歯科薬物療法学会常務理事、日本レドックス超分子医学生物学会理事、日本NO学会理事、Disaster Recovery Institute（DRI）Japan 理事、日本抗加齢医学会評議員、日本抗加齢医学歯科医学会世話人、AOB（食品と抗酸化物質）研究会世話人、日本ダウン症学会評議員、日本結合組織学会評議員、日本障害者歯科学会代議員、日本薬理学会代議員、歯科基礎医学会評議員 日本抗加齢医学会専門医　第1167号 日本歯科薬物療法学会専門医D0080号	特任教授 庄司　洋史（Hirofumi Shoji） 特任助教 横山　史織（Shiori Yokoyama）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、介護福祉士を対象として、研究者として最低限必要な研究スキルを修得していただき、修了後も各界で様々な病的な老化を制御する酸化ストレス医学・歯科・薬学・臨床栄養学を基盤としたアンチエイジング歯科医学の知識と基礎・臨床研究を活かして、災害歯科医学的課題に対応し、多職種連携と内外でグローバルにも活躍できる人材とリーダーを養成することを目的としています。特に、災害医療技術の発展に伴い多様化した障害や病態において、対処すべき様々な課題をエビデンスに基づいた論理的思考を基盤として、基礎・臨床研究技法を修得していただきます。

基礎・臨床研究を遂行するために必要な医療倫理、研究倫理への理解を深め、倫理審査申請の書き方、研究の進め方、学会でのプレゼンテーション、論文作成のスキルを養成します。また、フィールドワークを通して、多職種連携を理解し、災害被災地域を含め、病院、高齢者施設、福祉施設などの実際の現場における活動の機会を経験することで、地域医療・歯科医療連携についての理解を深め、地域災害医療活動における様々な課題に対応でき、地域歯科医療、災害医療におけるリーダーとして活躍できる人材を養成します。

様々な被災者の口腔および全身の特徴を理解するとともに、その病態の原因となる因子に関する最新の研究成果に触れ、新たな検査法、予防法の開発に携わることで、自らの研究能力を高め、科学的根拠に基づいた知識と論理的な思考力・解決力を身につけることができるよう指導します。

研究内容

- **電子スピン共鳴（ESR）法による生物医学応用となる酸化ストレスに関する医学・歯学・薬学・臨床栄養学に関する研究**

薬剤・飲食料品の抗酸化能評価と新規抗酸化薬剤・飲食料品の開発、疾患予防診断システムの開発、歯科材料・歯科臨床法の開発に携わってきました。生活習慣病、認知症などのこれらESR技術による研究成果から病的老化を防ぎ、とくに「歯の健康」を維持することで未病を実現し、地産地消の活性酸素を減らす（抗酸化）食品を食べることで、生活習慣病や認知症などを防ぎ、健康寿命を全うする歯科医師・歯科衛生士・看護師・医師・薬剤師・管理栄養士、介護福祉士などによる多職種連携が主役となる健康長寿延伸を実現するアンチエイジング歯科医学の普及を目指しています。

- **酸化ストレス病因論と検査法、治療法の開発**

若年者、高齢者、酸化ストレスによる歯周病、血管病、精神疾患、認知症などの患者、障害者、小児、妊婦などの災害弱者を含めた被災者の唾液を用いて、ESR法による活性酸素産生能、消去能を評価し、歯周病の病態メカニズムの解明および歯周病における抗菌・抗酸化併用療法の開発や摂食嚥下機能およびオーラルフレイル・フレイルに及ぼす影響を解明し、新たな口腔ケアとフレイルの検査法・治療法・機能療法・栄養療法の開発を目指しています。

社会人に対しての特記事項

募集なし

法医学分野（Department of Forensic Medicine）

指導教授：長谷川　巖（Iwao Hasegawa）	大学院教員等
研究プロフィール 医師・博士（医学） 日本法医学会法医認定医 厚生労働省死体解剖資格 日本医師会認定産業医 大阪大学大学院医学系研究科招へい教授 昭和大学医学部法医学講座客員教授	2 号教員 山本　伊佐夫（Isao Yamamoto） 中川　貴美子（Kimiko Nakagawa）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、法医学に従事する医療者として必要な知識と技術を身につけていただき、修了後も、法医学の学位取得者（博士）として、社会の課題に対応できる人材を養成することを目的としている。

また、警察官や検視官、検事、弁護士等、司法に関連する専門家との接点も多く、良好かつ円滑なコミュニケーション能力と、科学的根拠に基づいた法医学的な意見を述べることができる能力を身につけていただく。

研究内容

- **CT 等、画像診断技術を応用した病態解明**
- **DNA 鑑定（山田　良広　教授、大平　寛　准教授、藤田　紗英子　助教）**
- **法医解剖によって得られるヒト由来資料の研究**

社会人に対しての特記事項

本分野では、実際に法医解剖に立ち会い、警察や司法に携わる人との交流を通じて、実際の社会で使える特殊技能を身につけていただくことから、時間的制約の多い社会人には、負担が大きいと予想されます。しかし、日本でもまれな、常勤の医師と歯科医師がいる、医科歯科連携による神奈川剖検センターを有する当法医学分野での大学院生活は、得がたい経験になると確信しております。学位取得のみが目的であるかたには、不向きです。将来にわたって、法医学という学問体系を通じて、社会に貢献できる人材を育成することが、私どもにとって重要なミッションであることを確信しておりますが、同時に、学問を通じて社会に貢献したいという、強い「志（こころざし）」のあるかたに、来ていただきたいと考えております。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

糖尿病・内分泌内科学分野（Department of Diabetes and Endocrinology）

指導教授：青木　一孝（Kazutaka Aoki）	大学院教員等

研究プロフィール

1996 年　信州大学　医学部　卒業
1999 年　横浜市立大学大学院　卒業
2013 年　横浜市立大学附属病院講師　臨床試験支援管理室室長　臨床薬理センター長
資格:総合内科専門医　日本糖尿病学会専門医･指導医　日本内分泌学会専門医・指導医　日本臨床薬理学会　指導医

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

科学的根拠に基づいた医療を行うための知識、技術、態度を身に付けることが本分野の目標です。「糖尿病・内分泌学分野の英語論文を読みその内容を理解する」、「学会発表」、「論文を書く」といったことが出来るように指導を行います。
修了後も様々な課題に対して対応できる医療人となることを期待しています。

研究内容

2 型糖尿病患者は非常に多く、歯周病との関連性も指摘され、国内のみならず国際的にも大きな問題となっています。その問題に対処するため、基礎と臨床の両面から研究を行っています。

- **基礎研究**
  副腎アンドロゲンである Dehydroepiandrosterone (DHEA)の抗糖尿病作用に関する研究を行っています（Aoki K et al. Diabetes, 1999、Aoki K et al. Endocr J, 2000、Aoki K et al. Life Sci, 2004、Aoki K et al. J Steroid Biochem Mol Biol, 2016)。
- **臨床研究**
  糖尿病治療薬の薬理作用に着目した研究や服薬アドヒアランス向上を目指した研究を行っています(Aoki K, et al. Diabetes Obes Metab, 2008、Aoki K, et al.　Endocr J, 2020)。

社会人に対しての特記事項

糖尿病・内分泌学分野に興味を持った意欲ある社会人の入学を希望しています。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

高血圧症・腎臓内科学分野（Department of Nephrology and Hypertension）

指導教授：橋本　達夫（Tatsuo Hashimoto）	大学院教員等

研究プロフィール

ダノン健康栄養財団学術研究助成金受賞（2018）
第 31 回日本高血圧学会 YIA 優秀賞
第 5 回動脈硬化 Update 研究助成、日本心臓財団
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会透析専門医
主な著書：歯周治療と生活習慣病、日本歯科評論 2021
主な論文：ACE2 links amino acid malnutrition to microbial ecology and intestinal inflammation. Nature, 2012

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、研究者としての近代科学的素養を身に着けていただき、終了後には各界において課題解決能力を養成することを目的としている。

特に、課題発見、情報収集、データ分析、そして課題解決能力を養う。

具体的には、論文読解力、魅力的なプレゼンテーション能力、論文の書き方をマンツーマンで行う。

研究内容

➢ **慢性腎臓病の新規画像診断法**

慢性腎臓病は 8 人にひとりが罹患している国民病である。血清クレアチニンと尿蛋白でステージ分類され、末期には人工透析が必要となる。腎炎や間質性腎炎には免疫抑制療法が有効なことがあるが、診断には腎生検が必須であり、有用な画像診断法がない。近年、MRI 検査によって臓器の虚血や線維化の程度を非侵襲的に診断することが可能となった。この MRI 検査を用いて腎障害の程度が推定できることが分かってきた。さらには原疾患の推定までできる可能性がある。慢性腎臓病の新規画像診断法を検討している（右図参照タウンニュース 2021 年 11 月）。

神奈川歯科大附属病院

腎臓の変化をＭＲＩで見抜く

腎臓の病気は自覚症状が現れにくい。「沈黙の臓器」とも呼ばれており、無症状のまま病気を悪化させてしまうケースが少なくない。ところが最近になって腎臓を可視化する技術が著しく進化しているという。

慢性腎臓病は8人にひとりが罹患している国民病。放置しておくと将来的に人工透析に至るリスクがある。糖尿病、高血圧などが主な原因で、貧血、狭心症、骨粗しょう症などを合併する。慢性腎臓病による高リン血症の悪化は寿命と逆相関しており、腎臓が寿命を左右するともいえる。定期的な通院と食事、睡眠、運動、そして血圧管理が大切になる。

そんな腎臓病の診断に有用なのがＭＲＩ検査だ。「腎臓の酸素濃度や腎血流量を可視化できる」と神奈川歯科大学附属病院 腎臓内科の橋本達夫教授＝写真。カラー診断画像を患者に見せることで生活習慣を見直すきっかけにしてもらうほか、塩分摂取量、尿蛋白、蛋白質摂取量など腎機能に影響を与える項目を多角的に判断する。

同院腎臓内科では「透析導入を遅らせる診療」を第一にしている。腎臓専門医、管理栄養士、そして看護師の多職種がワンチームで患者を全面サポート。わずかな変化を見逃さない診断、楽しく食べて治す工夫、睡眠の質と運動習慣指導、社会保障の活用で支援する。

社会人に対しての特記事項

本分野では、後ろ向き研究を主体とするため、時間的制約の多い社会人でも終了できるよう指導できる。

特に現在の職種やこれまでの経歴を生かした研究テーマを選定するので、意欲ある社会人の入学を希望している。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

保存修復学分野（Department of Restorative Dentistry）

指導教授：向井　義晴（Yoshiharu Mukai）	大学院教員等
研究プロフィール 日本歯科保存学会　理事 日本歯科審美学会　理事 象牙質歯髄治療学会　理事 日本歯科保存学会専門医　第 724 号 日本歯科保存学会指導医　第 297 号 日本接着歯学会専門医　第 235 号 日本接着歯学会指導医　第 69 号 日本歯科審美学会認定医　第 194 号 主な著書：保存修復学（医歯薬出版）	2 号教員 椎谷　亨（Toru Shiiya） 飯塚　純子（Junko Iizuka） 國松　雄一（Yuichi Kunimatsu） 小倉　真奈（Mana Ogura） 日髙　恒輝（Kouki Hidaka）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

当分野の大学院生は単に最新の研究を行うだけでなく、臨床医としても優れた知識とスキルを備えた人材を育成することを到達目標として掲げている。すなわち研究により得られた成果を臨床に還元できる、また臨床における疑問を研究の課題にできるような能力を身につけていただく。附属病院での治療も積極的に行っていただきながら、早い時期から内外の多くの論文に目を通し、多くの機器に触れることで一流の研究者としての自覚を持っていただく。また、年 2 回の歯科保存学会ならびに学内総会における発表を通じて、プレゼンテーション能力を身に着け、大学院卒業後もその分野のリーダとして活躍できる人材を養成する。

研究内容

当分野では、齲蝕の先進的な治療法と予防法の確立を主テーマに据え、学内の講座のみならず、国内外の大学や多数の企業協力のもと、以下のような研究課題に積極的に取り組んでいる。

具体的な研究課題は、

1）多菌種バイオフィルムを用いた脱灰・再石灰化の研究
2）新規洗口剤の開発と抗菌効果の検討
3）ホワイトニング剤による再石灰化促進効果の検討
4）脱灰抑制・再石灰化促進効果を有するフッ化物含有歯科材料の開発
5）レオロジーから見たコンポジットレジンの材料特性
6）歯質に対する半導体レーザー照射に関する研究
7）口臭測定器を使用した臨床研究

等である。

社会人に対しての特記事項

募集なし

歯周病学分野（Department of Periodontology）

指導教授：小牧　基浩（Motohiro Komaki）	大学院教員等
研究プロフィール 日本歯周病学会評議員・常任理事・執行役員 日本歯科保存学会理事 日本歯周病学会認定指導医・専門医第 941 号 日本再生医療学会認定医 M1-2021-00281 号 研究分野：骨細胞生物学、幹細胞生物学、血管新生、動物実験 主な著書：Pericyte Biology in Different Organs	2 号教員 杉原　俊太郎（Syuntaro Sugihara） 平田　貴久（Takahisa Hirata）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

研究遂行に必要な論文検索法、論文（データ）の読み方、研究仮説の立て方、証明に必要な解析法（観察研究、動物実験手法、形態計測法、免疫組織学的解析法、細菌学的解析法、細胞生物学的解析法、分子生物学的解析法など）の手技ならびに理論的背景を学び、研究結果の社会への還元として学会発表と論文作成に必要な作業手順と知識を身につける。もって臨床的疑問に対して自身で仮説と実証が行える人材を育成する。

研究内容

- **歯周病と全身疾患の関連に関する臨床的・基礎的研究**
  - ① アルツハイマー型認知症について歯周病が関連するメカニズムおよび各種薬剤の治療効果の検討
  - ② 動物実験、微生物学的手法を用いて歯周炎と加齢との関連に関する解析
  - ③ 歯周炎発症と細菌伝播経路の解析
- **歯周組織の維持・再生に関する基礎的研究**
  - ① 歯肉の再生に関する基礎・臨床的検討
  - ② 脱細胞マトリックスを用いた組織再生の検討
  - ③ 幹細胞ならびに幹細胞以外の細胞外膜小胞を用いた組織再生効果に関する研究
  - ④ PRP、PRF、骨髄濃縮液を用いた歯周組織再生療法に関する臨床的検討
- **歯周病における画像診断（トモシンセシス法）の基礎・臨床的研究**

社会人に対しての特記事項

社会人大学院生には可能な限り時間的制約の少ない研究テーマを選定します。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

クラウンブリッジ補綴学分野（Department of Fixed Prosthodontics）

指導教授：木本　克彦（Katsuhiko Kimoto）	大学院教員等
研究プロフィール 日本歯科専門医機構　補綴歯科専門医 日本補綴歯科学会・指導医 日本口腔インプラント学会・専門医・指導医 日本デジタル歯科学会・理事・専門医 日本義歯ケア学会・理事長　他 主な著書：クラウンブリッジ補綴学　他	2号教員 齋田　牧子（Makiko Saita） 川西　範繁（Norishige Kawanishi） 本間　優太（Yuta Honma） 足立　拓也（Takuya Adachi）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、研究能力と補綴治療技術を同時に身に着けることによって、「診療から臨床的な疑問点（クリニカルクエスチョン、CQ）を創出し、研究ベースで解決する能力」「数多の研究報告の知見を取捨選択して診療へ応用する能力」を兼ね備える研究マインドをもった補綴専門医の育成を目的としている。具体的には、下記に示す研究内容から興味ある研究テーマを選択し、研究計画を指導者とともに立案し実践する。最終的には研究論文としてまとめ上げる。
また、診療技術においては、日本補綴歯科学会・日本口腔インプラント学会が認定する本分野の研修プログラムを受講し、各専門医の取得を目指す。取得された各専門医は、将来的に日本歯科専門医機構の「広告可能な専門医」へ移行予定である。

研究内容

本分野では4つの研究グループにより歯科補綴学に関連した研究を行っている。

- **咀嚼健康医学**（咀嚼機能が全身に及ぼす影響についての研究）
  - ① 口腔機能と認知症・軽度認知障害患者との関連性について
  - ② 唾液のメタボローム解析（代謝産物の網羅的な解析）
  - ③ 口腔と全身疾患（パーキンソン・心疾患など）
- **デジタルデンティストリー**（技術革新が目覚ましいデジタル歯科治療に関する研究）
  - ① ３Dプリンターの補綴治療へ応用
  - ② VR/XR技術の歯科教育と治療への展開
  - ③ 音声による摂食嚥下機能の評価
- **臨床研究**（補綴治療のエビデンスを構築する臨床試験）
  - ① 義歯安定剤利用ガイドライン構築に関するマルチセンター前向き臨床研究
  - ② 下顎無歯顎に応用する軟質リライン材の臨床効果 -多施設ランダム化比較試験-
  - ③ 3Dプリンターで製作したデジタル義歯のクロスオーバー試験
- **先端材料学**（新しい歯科材料の開発と検証する研究）
  - ① MDF高強度チタンの開発と歯科治療への展開
  - ② ナノセルロースの歯科材料への応用
  - ③ ジルコニアの歯面接着機構の解明

社会人に対しての特記事項

募集なし

有床義歯補綴学分野（Department of Removable Prosthodontics）

指導教授：井野　智（Satoshi Ino）	大学院教員等
研究プロフィール 日本補綴歯科学会評議員・指導医・専門医 日本接着歯学会評議員・指導医・専門医 ミュンヘン大学歯学部（保存修復学）・特別研究員 メインテーマ：ミニマルインターベンション（MI）に基づくノンメタル材料による歯冠補綴から有床義歯補綴法の開発	2 号教員 濵野　奈穂（Naho Hamano） 清水　統太（Tota Shimizu） 岩下　英夫（Hideo Iwashita） 富野　ゆかり（Yukari Tomino） 客員教授 宮本　績輔（Sekisuke Miyamoto）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

高度な高齢化社会において、デジタル技術が急成長する一方で、残念ながら欠損補綴を必要とする患者さんは増加の一途をたどっている。当分野では、補綴臨床のニーズに貢献できる臨床に直結したテーマに焦点を絞り、先行研究論文を熟知した上で自由な発想かつ独創性のある研究に取り組むことで、生涯にわたって、患者さんの抱える問題（疾患）をより深く・科学的に洞察して理解（診断）し、解決（治療）するための能力を養うことを目的にしている。また、広告開示に向けた準備が行われている補綴歯科専門医の取得に向けた基礎的知識・技能・態度の習得ができる体制を整えている。

研究内容

当分野で取り組んできた研究テーマは以下の通り。

- **ハイブリッド型コンポジットレジンによる CAD/CAM クラウンの開発**
- **Minimal Intervension に基づく各種接着剤の重合評価**
- **ジルコニアセラミックスの特性に配慮した表面加工法**
- **チタン表面加工の評価**
- **ノンメタルクラスプデンチャーの特性評価**
- **レジンコーティング法の CAD/CAM クラウンへの応用**

現在進行中の研究テーマは以下の通り。

- **デジタル頭蓋骨格モデルにおける機能的咬合平面の評価**
- **セルフクリーニングデンチャーの開発**
- **スポーツマウスガードによる姿勢と競技力向上への効果解析**

社会人に対しての特記事項

原則として、補綴臨床の専門性向上を目指す歯科医師を対象としており、本科生を中心とした募集を行っている。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔外科学分野（Department of Oral and Maxillofacial Surgery）

指導教授：安部　貴大（Takahiro Abe）	大学院教員等
研究プロフィール 日本口腔外科学会（専門医、指導医）代議員 日本再生医療学会（再生医療認定医）代議員 日本顎関節学会（専門医、指導医）代議員 日本口腔腫瘍学会（暫定口腔がん指導医）評議員 日本口腔科学会（認定医、指導医） 日本頭頸部癌学会代議員 日本がん治療認定機構（がん治療認定医（歯科口腔外科）指導責任者 日本口腔ケア学会・国際口腔ケア学会代議員	2 号教員 鈴木　健司（Kenji Suzuki） 田中　香衣（Kae Tanaka） 小松　紀子（Noriko Komatsu） 高才　東（Azuma Kosai） 沢井　奈津子（Natsuko Sawai）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

口腔外科学は臨床医学分野である。臨床研究を行ううえでの必要な研究倫理規範について学び、医歯学関連の学術論文をしっかりと理解しディスカッション出来る能力、そして細胞培養や動物実験などの生命科学研究スキルと、そこから得られたデータを科学的に分析できる能力の習得を目指す。また、キャリアパスとして口腔外科専門医を取得することを念頭においた外科的トレーニングについても、本分野の大学院生の必要項目と考えている。将来、口腔外科学分野の指導者としてプレゼンスを発信できるクリニシャン・サイエンティストの人材育成を目指す。

研究内容

- **光とトキシンを用いるがん治療法（イムノトキシン内在化法）の開発**

  分子標的薬の登場で、抗体医薬はがん医療において飛躍的な治療成績の向上に貢献している。この抗体にトキシンを付加したものをイムノトキシンと呼び、次世代の抗体医薬として注目されている。我々は、iTAP 法（intelligent Targeted Antibody Phototherapy）と名付けた新たな原理を考案し、ベンチャー企業とともに治療法の開発に取り組んでいる。

- **再生医療を基盤とする外科的アプローチによる難治性顎関節症治療への試み**

  顎関節症は本邦では国民のおよそ 15%が罹患しているとされる、第 3 の歯科疾患である。病態は複雑で、診断も容易ではないため、対処法はまだまだ統一されていない。我々は基本治療を行ってもなお改善しない難治症例、いわゆる顎内障といわれるケースについて、外科的アプローチの適応を検証しており、新たに再生医療を基盤とする治療法の開発を目指している。

- **口腔潜在的悪性疾患（Oral potentially malignant disorders: OPMDs）の診療指針の確立を目指した調査研究**

  OPMD は口腔癌の前駆病変として 2017 年 WHO 分類で新たに定義された疾患概念である。歯科医療現場で適切に口腔粘膜疾患を取り扱える診療指針の確立は喫緊の課題であり、日本口腔外科学会の資金援助を受けて、指針作成のための基盤研究を行う。

社会人に対しての特記事項

大学院で学位取得を目指すといっても、研究活動に費やせるライフスタイルは多様化しており、その目的も異なることは歓迎する。研究テーマについては相談のうえ柔軟に対応し、本分野で研究を行うことで、個々に見合ったスキルアップと人生の成長に繋げられるような環境を提供できるよう丁寧な指導を行う。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

歯科矯正学分野（Department of Orthodontics）

指導教授：山口徹太郎（Tetsutaro Yamaguchi）	大学院教員等
研究プロフィール 日本矯正歯科学会 代議員。編集委員会 委員。卒後教育委員会（全国歯科矯正学教育審議会）委員、管理指導医委員会 委員。東京矯正歯科学会 理事。日本矯正歯科学会 認定医・指導医。日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医。日本顎関節学会 専門医。日本歯科審美学会認定医。	２号教員 小泉　創（So Koizumi） 髙橋　正皓（Masahiro Takahashi） 畠中　玲奈（Reina Hatanaka） 朴　熙泰（Heetae Park）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、矯正歯科臨床における課題に対して、ひいては より良い治療に貢献しうる課題に取り組みます。そもそも より良い診療を実践するためには、これまでに明らかになっていることを理解しておくとともに、同時に明らかになっていないことについても認知しておく必要があります。そのための科学的に考えること、論理的に考えることを学んでいきます。これを涵養するための手段として研究を行うこと、すなわち徹底的に調査する、解析する、発表する、論文化することを学びます。

研究内容

- **顎口腔領域の形質（性質や特徴）に関与する遺伝子の探索**
- **コーンビーム CT 画像による顎口腔領域の形態計測**
- **CAD/CAM による口腔内装置の開発ならびにその特性に関する研究**
- **人工知能の矯正歯科臨床への応用**
- **顎顔面成長発育についての数理学的解析と予測**
- **AR 技術の矯正歯科臨床への応用**
- **矯正歯科臨床がもたらす細菌叢変化の解明**
- **矯正歯科臨床がもたらすエピジェネティクス変化の解析**
- **歯科矯正用アンカースクリューの脱落因子の追求**

社会人に対しての特記事項

事前に十分、課題、スケジュール等について検討します。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

画像診断学分野（Department of Imaging Diagnosis）

指導教授：櫻井　孝（Takashi Sakurai）	大学院教員等
研究プロフィール 日本歯科放射線学会評議員・常務理事 医療放射線防護連絡協議会理事 日本私立歯科大学協会専務理事 歯科医療振興財団常任理事 歯科放射線認定医・専門医・指導医 主な著書：新歯科放射線学	1号教員 泉　雅浩（Masahiro Izumi） 2号教員 谷口　紀江（Motoe Taniguchi） 特任教授 川股　亮太（Ryota Kawamata） 特任講師 印南　永（Hisashi Innami）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

近代医療における画像診断技術の発展は著しいことから、最新の正しい知識や技術を身に付けることは容易ではない。また、診断の精密さを追求するあまり、えてして電離放射線被ばくがもたらすリスクは軽視されがちである。本分野では、電離放射線の利用に伴う危険を十分理解した上で、先端的な画像診断技術を十分活用でき、さらに新しい技術開発に貢献できる人材を育成することを目標としている。

先行研究の成果について論文等を通じて情報収集するための情報力や、得た知識を活用するための応用力､データを纏めて発表するためのプレゼンテーション能力や文書力などについて、マンツーマンあるいはゼミ形式による指導で身に付けていただく。

また、将来専門医となるための基盤となる、歯科放射線認定医などの資格についても、可及的に取得することを目指していただきたい。

研究内容

- **歯科用 CBCT による被ばく線量の実態調査研究**

  歯科用 CBCT は歯科診療の画像診断に不可欠なエックス線検査装置ですが､撮影条件により被ばく線量が多くなるため、最適化が重要です。本研究は全国の歯科医院の撮影条件の実態調査を行い、国民の被ばく線量を最小限にすることを目的に実施します。

- **CT 金属アーチファクトの定量分析法**

  口腔領域の CT 検査のほとんどに金属修復物等によるアーチファクトが生じます｡このアーチファクトは画像診断に支障を来すため、軽減するための研究が精力的に行われています。本研究は金属アーチファクトを低減するための新しい技術を開発するものです。

- **脳機能評価のための最適な MRI 撮像条件の検討**

  MRI には脳機能を描出できるファンクショナル MRI という撮像法があります。口腔機能と脳機能との関連をみる先進的な研究に利用されることが多く、その際の最も効率的な撮像条件を確立するための研究です。

- **放射線治療後の口腔乾燥症に対する IVR 治療**

  放射線照射などで障害を受けた耳下腺に対する独自の治療法です。唾液腺造影検査のカテーテルを利用するもので、非侵襲的な新しい治療法の確立を目指します。

社会人に対しての特記事項

募集なし

歯科麻酔学分野（Department of Dental Anesthesiology）

指導教授：讃岐 拓郎（Takuro Sanuki）	大学院教員等
研究プロフィール 日本歯科麻酔学会代議員・理事 臨床モニター学会評議員 日本歯科麻酔学会認定医・専門医・指導医 日本蘇生学会指導医 主な著書: *Respir Physiol Neurobiol*. 2020;277:103429. *Physiol Rep*. 2020;8(10):e14439. *Clin Oral Investig*. 2017;21(3):915-920.	2 号教員 今泉　うの（Uno Imaizumi） 黒田　英孝（Hidetaka Kuroda） 月本　翔太（Shota Tsukimoto）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、臨床医が研究をする意義を考え、臨床医が研究をするために必要なスキルを身につけていただくことを目的としています。すなわち、大学院修了時に、日常臨床において患者様が発するサインを見逃さず、仮説をたて、適切な方法でその仮説を検証し、公表することができる能力を身につけます。臨床医は患者を観察し、患者様に起こっていることを推察し、診断・治療を行い、その結果の検証を行います。そのため、大学院にて学ぶ仮説を検証する能力は、臨床医としてのスキルも向上させることが期待されると信じています。

抄読会で論文の読解力を、教室内プログレス発表会や学会発表でプレゼンテーション能力を磨き、課題を解決するための考え方や論文の書き方が身に付くように教員全員でサポートします。歯科医師が麻酔管理（全身麻酔や鎮静など）する意義や専門性を示すことができる研究テーマを選定しています。在学中に臨床医として日本歯科麻酔学会認定医（専門医）を取得できるようにサポートします。

研究内容

- **上気道管理に関する研究（讃岐）**

  上気道閉塞の発生メカニズムや上気道防御反射の閾値に影響する因子を検討しています。また、周術期に行われる呼吸療法が上気道や呼吸に与える影響を呼吸生理学的に検討しています。

- **医療事故の原因解明に関する研究（今泉）**

- **局所麻酔薬の抗酸化作用に関する研究（黒田）**

  局所麻酔薬の持つ抗酸化作用が周術期にどのような影響をもたらすのかを研究しています。また、三叉神経節細胞を用いて神経障害性疼痛の機序や治療薬の研究をしています。

- **新しい全身麻酔薬レミマゾラムに関する研究（月本）**

社会人に対しての特記事項

本分野では、各学生の希望をできるだけ優先し、修了できるよう丁寧に指導していきます。各学生にフィットする歯科麻酔科学における研究テーマを選定しますので、意欲ある社会人の入学を歓迎いたします。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

障害者歯科学分野（Department of Dentistry for the Special Patient）

指導教授：小松　知子（Tomoko Komatsu）	大学院教員等
研究プロフィール 日本障害者歯科学会副理事長 日本老年歯科医学会代議員・日本ダウン症学会理事 日本歯科薬物療法学会理事・日本抗加齢医学会評議員 日本障害者歯科学会専門医指導医 第5号 日本老年歯科医学会老年歯科専門医制度指導医 第141号 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 第110299号 日本歯科薬物療法学会専門医 D0080号 日本抗加齢医学会専門医 第1554号	２号教員 高野　知子（Tomoko Takano） 赤阪　徹（Tetsu Akasaka） 野口　毅（Tsuyoshi Noguchi） 客員教授 池田　正一（Masakazu Ikeda） 特任准教授 西山　和彦（Kazuhiko Nishiyama） 特任講師 松澤　直子（Naoko Matsuzawa） 川邉　裕美（Hiromi Kawabe）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、研究者として最低限必要な研究スキルを修得していただき、修了後も各界で様々な歯科医学的課題に対して対応し、将来リーダーとして活躍できる人材を養成することを目的としています。特に、医療技術の発展に伴い多様化した障害や病態において、歯科が対処すべき様々な課題をエビデンスに基づいた論理的思考を基盤として臨床研究技法を修得していただきます。

臨床研究を遂行するために必要な医療倫理、研究倫理への理解を深め、倫理審査申請の書き方、研究の進め方、学会でのプレゼンテーション、論文作成のスキルを養成します。また、フィールドワークを通して、多職種連携を理解し、実際の現場での機会を経験することで、地域医療連携についての理解を深め、地域医療活動における様々な課題に対して対応でき、地域医療におけるリーダーとして活躍できる人材を養成します。

様々な障者児・者の口腔および全身の特徴を理解するとともに、その病態の原因となる因子に関する最新の研究成果に触れ、新たな検査法、予防法の開発に携わることで、自らの研究能力を高め、科学的根拠に基づいた知識と論理的な思考力を身につけることができるよう指導します。

研究内容

- **酸化ストレス病因論と検査法、治療法の開発**
  Down 症候群患者、高齢者、若年者の歯肉線維芽細胞および唾液を用いて、電子スピン共鳴(ESR)法による活性酸素産生能、消去能を評価し、歯周病の病態メカニズムの解明および歯周病における抗菌・抗酸化併用療法の開発や摂食嚥下機能およびオーラルフレイル・フレイルに及ぼす影響を解明し、新たな検査法、治療法・機能療法・栄養療法の開発を目指しています。
- **高齢者、障害者の摂食嚥下機能と脳機能の関連性の評価と機能低下予防に関する研究**
  fMRI や嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査による評価と摂食嚥下機能療法の有効性を検証し、全身の健康や疾患にも有効な摂食嚥下機能療法の開発を目指しています。
- **障害児者・高齢者の在宅歯科医療における多職種協働ネットワーク構築に関する調査研究**
  障害児者の歯科医療･摂食嚥下機能療法における地域医療ネットワーク構築と連携を円滑に行うための調査研究や、オンライン診療や DX を含めたネットワーク ICT システムを構築するための臨床研究を目指しています。

社会人に対しての特記事項

本分野では、実際に多数の教育・研究プログラムがあることから、時間的制約の多い社会人には各自、自主的に興味のある研究課題を選択ができるよう、各々の兼務する職種の制約に応じた学生の希望をできるだけ優先して、修了できるよう最後まで丁寧に指導していきます。特に、現在の職種やこれまでの経歴を生かした研究テーマを自身の希望をしっかり聞きまして、選定するようにしますので、意欲ある社会人の入学を希望しています。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

ｸﾘﾆｶﾙ・ﾊﾞｲｵﾏﾃﾘｱﾙ学分野（Department of Clinical Biomaterials）

指導教授：二瓶智太郎（Tomotaro Nihei）	大学院教員等
研究プロフィール ・日本歯科理工学会理事長・理事・代議員 Dental Materials Senior Adviser（第 124 号） ・日本接着歯学会理事長・代議員 接着歯科治療専門医（第 161 号）・指導医（第 24 号）・ 専門医認定研修施設長（A4101） ・日本デジタル歯科学会代議員 ・日本歯科保存学会代議員 歯科保存治療専門医（第 668 号）・指導医（第 292 号）	2 号教員 大橋　桂（Katsura Ohashi） 片山　裕太（Yuta Katayama）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野では、歯科臨床で使用される歯科材料、生体材料、および歯科機器に関わる基礎知識を修得し、さらに臨床に生かせるあるいは生かすための材料学と器械学を修得することを目標としている。そのためには、研究者としてのスキルを身につけ、課題に対する思考力を育成し、修了後も各界で様々な課題に対応できる人材を養成することを目的としている。

本分野では、毎週の大学院生セミナーを開催し、

・材料および機器の基礎教育
・各自の研究課題の進捗状況の確認ならびにその後の方針
・研究課題関連英論文の抄読会
・学会発表および論文発表

などを指導する。

研究内容

- **長期耐久性を有する歯冠修復・補綴用材料の開発**
  歯冠修復・補綴用材料として、現在は様々な種類が臨床で用いられている。その中で CAD/CAM システムの導入になり、レジン、セラミックス、ジルコニアが臨床で頻用されている。長期において耐久性を有する材料の開発を目指している。
- **ジルコニア、セラミックスに対する接着性プライマーの開発**
  ジルコニアやセラミックスが確実に支台歯に接着するような新規プライマーの開発を目指している。
- **骨伝導性バイオカップリング剤の開発と基礎的研究**
  骨の再生を早期に促す新規バイオカップリング剤の開発を目指している。
- **レーザーを用いた新規治療法の開発**
  様々なレーザー機器の歯への照射した効果を検索しつつ、高密度なエネルギーを使用した新たな治療法の開発を目指している。
- **CAD/CAM システムによる歯冠修復装置の臨床調査研究**（神奈川歯科大学倫理申請 No.847）
  CAD/CAM システムによる歯冠修復装置装着後の予後調査し、材料開発を目指している。

社会人に対しての特記事項

本分野では、多数の教育プログラムがあり、時間的制約の多い社会人には負担が大きいが、各学生の希望を可能な限り優先して修了できるように最後まで丁寧に指導していく。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔デジタルサイエンス学分野（Department of Oral Digital Science）

指導教授：星　憲幸（Noriyuki Hoshi）	大学院教員等

研究プロフィール

日本補綴歯科学会　代議員
日本口腔診断学会　理事
日本デジタル歯科学会　理事
日本義歯ケア学会　理事
日本唾液ケア研究会　評議員
主な著書：補綴・デジタルデンティストリーのための重要 10 キーワードベスト 200 論文
基礎から学ぶ CAD/CAM テクノロジー

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

本分野は、研究者としての基本的な姿勢と能力を修得することで、将来にわたり研究者としてだけでなく、様々な活躍が出来る人格形成と共に問題に向き合う姿勢と能力の基礎を身に着けることを目的としている。

研究に対する計画立案や実施に必要となる知識収集と技術の獲得や結果に対する PDCA による改善などを個別指導するとともに、学会での研鑽法や発表に必要となる発表法の修得、様々な情報獲得のためのスキルとして、論文の検索・読解力の修得を行い、論文作成に必要となる基礎的知識と技法を十分な時間と練習を行い、卒業まで手厚く丁寧な指導を行う。

研究内容

- **唾液と口腔内症状の臨床研究（各種病態への新規開発）**

唾液中の全代謝プロファイルを検索することで、口腔内に起こり得る各種病態・不快症状の早期診断に役立つ検査法を確立することを目指している。

- **新たな歯科診療確立のためのデジタル技術開発**

デジタル技術は歯科診療に欠かせないものとなっている。しかし、未だ発展途上である診断・治療時のデータ活用法、ビックデータ解析、患者とのコミュニケーションツール開発を行い、より高精度で安全となるような臨床的デジタル技術の開発を行う。

- **認知症・パーキンソン病の早期診断の開発**

認知症やパーキンソン病は早期診断に苦慮する病気である。その早期診断の開発は急務であり、唾液代謝プロファイルを用いることで新たな早期診断方法の開発を行う。

- **光触媒技術の歯科応用と新規材料開発**

歯科材料の開発と光触媒の応用により、より安全で確実な治療を行えるように材料開発と光触媒応用を行う。

社会人に対しての特記事項

本分野の研究は、臨床研究を主体としているため将来に役立つ研究であり、日常臨床を行いつつ研究することも可能である。ただし、様々な学修も必須のため学位取得まで細やかで丁寧な指導を行う。今までにも、社会人でも行える研究を選定して研究者として独り立ちしているので、是非研究マインドのある社会人の入学を期待する。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

高度先進口腔外科学分野
(Department of Advanced Oral and Maxillofacial Surgery)

指導教授：西久保　周一（Shuichi Nishikubo）	大学院教員等
研究プロフィール 日本口腔外科学会　専門医・指導医 歯科医師臨床研修指導歯科医 がん治療認定医（歯科口腔外科） 日本臨床細胞学会　細胞診専門医 東京歯科大学　口腔腫瘍外科学講座　非常勤講師 日本大学歯学部口腔外科学第１講座　兼任講師 AO Delegate	2号教員 小枝　聡子（Satoko Koeda） 荻澤　翔平（Shouhei Ogisawa） 石井　滋（Shigeru Ishii） 特任教授 外木　守雄（Morio Tonogi）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

大学院では、物事の本質を突き詰めるための考え方の構築の仕方を、研究、臨床を通して身につけて頂きます。特にプレゼンテーション能力の養成、論文執筆のスキルについてトレーニングをしっかりと行います。

研究内容

①顎矯正手術における顎骨周辺組織変化についての研究

呼吸生理を考慮に入れた顎矯正手術における周辺組織の変化について、手術前後を比較し、その変化について細かく検討している。多くの潜在的な閉塞性睡眠時無呼吸症患者の潰れない気道を作るための研究を行っています。

Shouhei Ogisawa, Shuichi Nishikubo,et al. : The changes in oral volume and hyoid bone position after maxillomandibular advancement and genioglossus advancement for patients with obstructive sleep apnea, Sleep and Breathing, doi: 10.1007/s11325-022-02600-7, 2022.

②顎変形症が原因の閉塞性睡眠時無呼吸症に対する外科手術療法について

私たちの講座の得意とする領域は、顎変形症が原因の閉塞性睡眠時無呼吸症候群です。その予備軍から発症している患者まで多くの患者を対応しております。その手術方法は近年、少しづつ改良が重ねられております。より効率の良い治療方法を模索し、日々改良を重ねております。補助的な筋機能訓練などを交えて、より良い術式に改良するよう研究を行っています。

Shuichi Nishikubo, Shouhei Ogisawa,et al: New method of Le Fort I osteotomy with increased stability. Journal of Oral Science, 63, 298-330, 2021.

社会人に対しての特記事項

本大学の大学院では多数の教育プログラムが課せられているため、社会人には負担が大きくなっております。それが可能な社会人に対しては、研究テーマをしっかりと選定し、最後まで丁寧に指導を行います。意欲のある社会人の入学をお待ちしております。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

口腔再生インプラント学分野（Department of Regenerative Implant Dentistry）

指導教授：黒田　真司　（Shinji Kuroda）	大学院教員等
研究プロフィール 日本口腔インプラント学会　代議員・専門医・指導医 日本再生医療学会　認定医 国際口腔インプラント学会　理事 日本補綴歯科学会　代議員 日本顎顔面インプラント学会	１号教員 河奈　裕正（Hiromasa Kawana）

指導方針（到達目標・大学院でどのような能力が身につくか）

高き人格と豊かな識見を養い、高度の学術理論及び技術を教授・研究し、有能な歯科医師を育成することを目的としている。大学院生が研究を進めるために必要な基本的な知識と技術の教育プログラムを立て、つまり科学論文の読み方、実験計画の立て方、実験におけるタイムポイントやサンプル数の決め方、データの解析法、論文の書き方を教え、歯科臨床の発展に貢献できるScientific ClinicianおよびClinician Scientistを育成したいと考えている。このような大学院教育のゴールはやはり、研究と同様、臨床の技術を向上させ、患者さんを助けることができると考える。

欠損補綴のツールの１つとして口腔インプラントの利点・欠点を幅広く考察し、治療計画を立てることができる歯科医師を育成する。

研究内容

- **咬合と全身との関連：　身体重心動揺と咬合の動的解析**
- **欠損補綴装置の理想的デザインの考察**

将来目標

- **生体材料（ナノカーボン等）の応用：　生体反応解明　＋　骨再生（脂肪組織由来幹細胞の骨芽細胞分化促進）**
- **インプラント周囲組織：　咀嚼、咬合　⇒　生化学的変化（免疫応答シグナル伝達機構、炎症）**

社会人に対しての特記事項

学生の希望に沿うような研究テーマを選定します。意欲ある社会人学生を歓迎いたします。

※本学所定の単位を修得するために通学し講義に出席が出来ること。

2025年度学生募集要項

募 集 人 員

○ 18 名

・1期　約10 名　（学内推薦選抜（神奈川歯科大学卒業者）および一般選抜、社会人特別選抜
特待生選抜、外国人留学生選抜）

・2期　約 8 名　（学内推薦選抜（神奈川歯科大学卒業者）および一般選抜、社会人特別選抜、
特待生選抜、外国人留学生選抜）

一 般 選 抜 （ 本 科 ） 出 願 資 格

次のいずれかに該当する者

（1）大学（医学、歯学又は修業年限6年の獣医学を履修する課程）を卒業した者及び2025年3月卒業見込みの者。

（2）外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学又は獣医学）を修了した者及び2025年3月修了見込みの者。

（3）文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）

（4）本大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学又は修業年限6年の獣医学を履修する課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達している者。

※（4）に該当する方は資格認定審査が必要なので所定の手続きをしてください。詳細は本要項36ページ～の「資格認定審査（出願前）」をご覧ください。

学 内 推 薦 選 抜　（神奈川歯科大学卒業者）

一般選抜の資格とともに、アドミッションポリシーを理解し、専願で受験できる者。

※学長の推薦書が必要です。

※試験については、歯学専攻試験を免除します。

○学内推薦選抜試験を希望する者は、下記締切日迄に希望する教授に申し出て推薦書について依頼してください（但し、本要項９ページ～で募集を行っている教授のみ）。

締切日：1期　2024年10月28日（月）　※出願締切日とは異なるので注意してください。
2期　2025年 1月 8日（水）　※出願締切日とは異なるので注意してください。

特 待 生 選 抜

一般選抜の資格とともに、3年で修了を目指す学生で本大学院を専願で受験できる者。

※学長の推薦書が必要です。

試験については、同日に実施する入学試験の問題に加えて特待生試験問題を受験します。

希望者は、同日に実施する一般選抜試験も受験することができます。この場合、特待生選抜試験で不合格となった場合に一般選抜試験で合否判定を行います。

本試験の目的は、『本学の歯科医学専門領域において、研究教育を担う優秀な人材の養成を推進し、世界をリードする研究者を育成すること。』にあります。したがって、減免対象者は主に下記の事項への同意が必要となります。

1. 早期修了プログラム(修了年限：3 年)で研究すること。
2. 大学院修了後も本学の教育研究に貢献すること。

〇本学を卒業した者

特待生選抜試験を希望する者は、下記締切日迄に希望する教授に申し出て推薦書について依頼してください（但し、本要項 9 ページ～で募集を行っている教授のみ)。

締切日：1期　2024年10月28日（月）※出願締切日とは異なるので注意してください。

2期　2025年 1月 8日（水）※出願締切日とは異なるので注意してください。

外 国 人 留 学 生 選 抜

一般選抜の資格とともに、日本国以外の国籍を持つ者。

社 会 人 特 別 選 抜

一般開業医や病院勤務歯科医、歯学分野の研究者及び各種保健医療従事者の社会人であって、現在既に就業しているか入学後に就業することが見込まれる者。かつ、一般選抜の資格とともに、本大学院所定の単位を修得するために通学が可能で、**講義に出席できる者。（社会人経験が1年以上の者）**

＊詳細は大学院教育研究部にお問い合わせください。

＊指導教授の退職等で所属移籍等行っていただくこともあります。

出 願 書 類

(1)　志　願　票・履　歴　書（裏面）

・本要項添付の用紙を使用してください。

① 志　願　票

・出願する区分を〇で囲んでください。

・証明書用写真（出願3ヶ月以内に撮影）を貼付（のりづけ）してください。

② 履　歴　書

・学歴は高等学校卒業から記入してください。

(2)　整理票・受験票・受験票在中封筒・入学検定料納付証明票

・本要項添付の用紙を使用してください。

① 整　理　票

・出願する区分に☑を、出願する期には○をつけてください。

・証明書用写真を貼付（のりづけ）してください。

② 受　験　票

・出願する区分に☑を、出願する期には○をつけてください。

③ 受験票在中封筒

・受取場所の住所を正確に記載し、410円分の切手を貼付（のりづけ）してください。

④ 入学検定料納付証明票

・ゆうちょ銀行（郵便局）で検定料を納入後、「振替払込受付証明書（お客様用）」を貼付（のりづけ）してください。

・受付局日附印のないものは無効となります。

※ 写　真／ 2枚

・志願票、整理票に貼付（のりづけ）してください。

・脱帽上半身正面向、無背景、カラー、たて4cm ×よこ3cm、出願3ヶ月以内に撮影したものに限ります。

・スピード写真や不鮮明な写真は使用しないでください。

(3)　成績証明書／1通

・出身大学・各学校の長の発行したもので、厳封したものに限ります。

＊認定審査を受けた人は不要

(4)　卒業（卒業見込）証明書／1通

＊認定審査を受けた人は不要

[学内推薦選抜および特待生選抜試験を希望する場合は下記の書類も提出してください]

(5)　推薦書（学長名）／1通

・本学卒業者は期日（本要項33～34ページ学内推薦選抜※および特待生選抜参照※）までに希望する教授へご連絡ください（但し、本要項9ページ～で募集を行っている教授のみ）。

・特待生選抜試験を希望する他大学卒業者は様式自由（但し、学長名で本大学院歯学研究科長宛のこと）

[社会人大学院を希望する場合は下記の書類も提出してください]

(6)　就業（就業見込）証明書／1通

・本要項添付の用紙を使用してください。

・2025年4月1日において、就業しているか入学後に就業することが見込まれる方は、就業

（就業見込）先施設の証明が必要となります。

・就業または就業見込の区分に☑をつけてください。

(7)　受験承諾書／1通

・本要項添付の用紙を使用してください。

資格認定審査（出願前）

一般選抜（本科）出願資格（4）に該当する者に対しては、出願に先立ち、個別の入学資格認定審査により、大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力の有無に関する資格認定審査（以下、「認定審査」という。）を実施します。認定審査は、書類審査及び必要に応じて学部卒業程度認定試験を実施し、合格した者が博士課程入学試験に出願することができます。

受付順に審査し結果をお知らせいたします。各試験区分の申請期間は下記のとおりとなります。

・申請期間

1期：2024年10月 1日（火）～ 2024年10月15日（火）郵送必着

2期：2024年12月17日（火）～ 2025年 1月10日（金）郵送必着

※下記、審査書類を大学院教育研究部へ持参または郵送（書留郵便）してください。提出書類は返却しません。

・資格認定審査申請書（所定様式）

・履歴書（所定様式）

＊就業歴の記載に際して、所属長名・所属医療機関名・問い合わせ先も記載してください。

・出身学校の卒業証明書及び成績証明書

・就業証明書（所定様式）＊現在の就業先で取得してください。

・免許証の写し

・その他参考となる資料（様式自由）　例：研究論文や学会発表などの一覧

・返信用長3封筒（速達410円切手貼付・合否通知用）

学部卒業程度認定試験

認定審査で学部卒業程度認定試験が必要と判断された方は、下記の日程で試験を実施するので受験してください。詳細は大学院教育研究部にお問い合わせください。該当者の方は、認定試験の合格後に大学院受験資格が与えられます。

認定試験日程

・第1回　2024年10月24日（木）

・第2回　2025年 1月16日（木）

会場　神奈川歯科大学　横須賀キャンパス

出願手続きについて

出 願 期 間

○　1期：2024年10月17日（木）～ 2024年11月12日（火）　郵送必着

○　2期：2024年12月18日（水）～ 2025年 1月27日（月）　郵送必着

出 願 方 法

○　郵送出願を原則といたします。

○　本要項折り込みの封筒にて書留郵便により出願期間内に提出してください。

○　出願前に教授等（本要項9ページ～で募集を行っている担当教員）に博士課程の研究・教育内容、出願資格等についてご相談ください。

【送　付　先】〒238-8580　横須賀市稲岡町82番地　神奈川歯科大学　大学院教育研究部

【受付時間等】月曜日～金曜日　9:00～17:00迄（土、日曜・祝日を除く）

検　定　料

○　30,000円

・検定料はゆうちょ銀行（郵便局）で本学所定の「払込取扱票」を使用し納入してください。なお、手数料は払込人負担となります。

・一旦出願手続きを完了した出願書類・入学検定料等は、理由の如何にかかわらず返還しません。

選　　考

試験日	時間	試験科目・内容	会　場
1期 2024年12月 4日（水） 2期 2025年 2月14日（金）	**・一般、社会人、特待生、外国人留学生選抜** 集合：9:00 試験開始：9:15 (8:45より会場へ入場可能) 歯学専攻試験、筆答試験、口述および面接試験	1. 歯学専攻試験：筆答による試験 ※辞書（翻訳・通信機能のない電子辞書を含む）の持込可 2. 筆答試験：英語 （英語論文要旨の翻訳とその内容に関する記述問題数問） ※辞書（翻訳・通信機能のない電子辞書を含む）の持込可 3. 口述および面接試験：上記 2. 筆答試験の英語論文要旨の理解度を確認	神奈川歯科大学横須賀キャンパス
	・学内推薦選抜 集合：10:00 試験開始：10:30 (9:50より会場へ入場可能) 筆答試験、口述および面接試験	1. 筆答試験：英語 （英語論文要旨の翻訳とその内容に関する記述問題数問） ※辞書（翻訳・通信機能のない電子辞書を含む）の持込可 2. 口述および面接試験：上記 1. 筆答試験の英語論文要旨の理解度を確認	

※受験票を持参してください。

合 格 発 表

○　1期：2024年12月16日（月）　14:00

○　2期：2025年 2月28日（金）　14:00

・本大学院ホームページ上（https://graduate.kdu.ac.jp/）において合格者を掲載（受験番号）いたします。

・合否結果に関する問い合わせには一切お答えできません。あらかじめご了承ください。

・入学手続完了後、入学を辞退する場合は、2025年3月31日（月）正午までに申し出れば入学金以外の学納金は返還します。

入学手続きについて

手 続 期 間

○　1期：2024年12月17日（火）～　2025年 1月17日（金）必着

　　2期：2025年 3月 3日（月）～　2025年 3月13日（木）必着

注）入学の取消し

・本大学院が指定した期日内に入学手続きが完了されない場合は、入学を取消します。
・手続きに不備がある場合には、入学が許可されない場合があります。
・2025年3月卒業見込みとなっていた大学を卒業できない場合、入学を取消します。

学 納 金

費　　目	入学手続時	後　　期	合　　計	備　　考
入 学 金	300,000円 （200,000円）		300,000円 （200,000円）	入学時のみ
授 業 料	350,000円 （350,000円）	350,000円 （350,000円）	700,000円 （700,000円）	毎 年 度
維 持 費	100,000円 （ 免 除 ）		100,000円 （ 免 除 ）	入学時のみ
合　　計	750,000円 （550,000円）	350,000円 （350,000円）	1,100,000円 （900,000円）	

※（ ）内は本学を卒業した者

奨学金制度

人物、学業が優れ、経済的理由のため修学が困難な学生に対し、日本学生支援機構からの奨学金貸与制度があります。

ただし、推薦できる方は日本学生支援機構の推薦基準により選考のうえ、日本学生支援機構の定める人数となりますので、希望者全員に貸与されるとは限りません。

神奈川歯科大学

大学院歯学研究科（博士課程）

出　願　書　類

●本要項　P.34～「出願書類」を参照してください。

一般選抜・学内推薦選抜・特待生選抜・外国人留学生選抜

(1) 志願票・履歴書

(2) 整理票・受験票・入学検定料納付証明票

(3) 成績証明書　＊認定審査を受けた人は不要

(4) 卒業（卒業見込）証明書　＊認定審査を受けた人は不要

(5) 推薦書（学長名で本大学院歯学研究科長宛）学内推薦選抜および特待生選抜試験

・本学卒業者は本要項P.33～を参照してください。

・特待生選抜試験を希望する他大学卒業者は様式自由（但し、学長名で本大学院歯学研究科長宛のこと）

社会人特別選抜

(1) 志願票・履歴書

(2) 整理票・受験票・入学検定料納付証明票

(3) 成績証明書　＊認定審査を受けた人は不要

(4) 卒業（卒業見込）証明書　＊認定審査を受けた人は不要

(5) 就業（就業見込）証明書　＊本法人就業（就業見込）の場合は、理事長名で証明（人事課へ申請）

(6) 受験承諾書　＊本法人就業（就業見込）の場合は、横須賀または横浜（勤務地）の病院長名で証明（各病院へ申請）

記 入 例

特待生選抜を受験する場合は、一般選抜の希望について、必ず「有・無」のどちらかに○をしてください。

※受付番号

2025年度　神奈川歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）志願票

□ 出願区分

2024 年 × 月 × 日

［1期：学内推薦選抜・一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生選抜・特待生選抜（一般選抜希望：有・無）］※

［2期：学内推薦選抜・一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生選抜・特待生選抜（一般選抜希望：有・無）］※

※出願区分を○で囲んでください。

神奈川歯科大学学長　殿

貴大学大学院歯学研究科（博士課程）に入学いたしたく、所定の書類を添え[illegible]

記入日での満年齢をご記入ください。

ふりがな（ローマ字）	いなおか　たろう（ INAOKA TARO			写真貼付欄 脱帽上半身正面向 無背景、カラー たて4cm×よこ3cm 出願3ヶ月以内に撮影
氏　名	稲　岡　太　郎			
生年月日	1999 年　5 月　5 日生（満 25 才）	性　別	男・女	
ふりがな	かながわけん　よこすかし　いなおかちょう			
現住所	〒 238 - 8580 神奈川県 横須賀市 稲岡町 82			
	電　話：046 - ×××× - ×××× 携帯電話：090 - ×××× - ××××	E-mail：×××××@kdu.ac.jp		
ふりがな				
住所 ※上記以外に各種文書の郵送先として希望する場合は記入してください。	〒　- （電			

証明書用写真を使用し、のり付けしてください。

必ず、出願前に希望の教授にご相談ください。教授の自署となりますのでご相談時に頂いてください。

筆頭の指導担当者（※）（自署）	指導責任者（※）（自署）
×× ××　教授	×× ××　教授

注）1. 記入にあたっては、黒ペンまたは黒ボールペンをご使用ください。
2. 楷書で正確に記入してください。
3. 裏面も必ず記入してください。
4. ※印は記入しないでください。
※筆頭の指導担当者：定年退職時まで当該大学院生を指導する者（自署）
指導責任者：当該大学院生の在学期間全てにおいて指導責任を負う者（自署）

履　歴　書

職歴が有る場合は、入社・退社を記入してください。

年	月	学　歴　・　職　歴など（各別にまとめて書く）
2018	3	私立　稲岡学院　　高等学校　卒　業
2018	4	神奈川歯科大学歯学部　　入学
2024	3	神奈川歯科大学歯学部　　卒業
2024	4	神奈川歯科大学附属病院　　研修歯科医
2025	3	神奈川歯科大学附属病院　　研修歯科医　　修了予定
年	月	免　許　・　資　格
20××	××	普通自動車運転免許証　　取得
2024	××	歯科医師免許（歯科医籍第××××××号）取得
年	月	賞　罰
		なし

賞罰がない場合は、必ず「なし」と記入してください。

上記のとおり相違ありません。

20××年　×月　×日

氏　名　稲岡　太郎　稲岡

※学歴は高等学校卒業から記入してください。

※受付番号

2025年度　神奈川歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）志願票

□　出願区分　　年　　月　　日

［1期：学内推薦選抜・一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生選抜・特待生選抜（一般選抜希望：有・無）］※

［2期：学内推薦選抜・一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生選抜・特待生選抜（一般選抜希望：有・無）］※

※出願区分を〇で囲んでください。

神奈川歯科大学学長　殿

貴大学大学院歯学研究科（博士課程）に入学いたしたく、所定の書類を添えて出願いたします。

<table>
<tr><td>ふりがな（ローマ字）</td><td colspan="3">（　　）</td><td rowspan="3">写真貼付欄

脱帽上半身正面向
無背景、カラー
たて4cm×よこ3cm
出願3ヶ月以内に撮影</td></tr>
<tr><td>氏　名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>生年月日</td><td>年　　月　　日生（満　　才）</td><td>性　別</td><td>男・女</td></tr>
<tr><td>ふりがな</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>現　住　所</td><td colspan="4">〒　　-</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">電　　話：　　－　　－
携帯電話：　　－　　－</td><td colspan="2">E-mail：</td></tr>
<tr><td>ふりがな</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>住　　所
※上記以外に各種文書の郵送先として希望する場合は記入してください。</td><td colspan="4">〒　　-　　（電　　話：　　－　　－　　）</td></tr>
<tr><td colspan="3">筆頭の指導担当者（※）（自署）</td><td colspan="2">指導責任者（※）（自署）</td></tr>
<tr><td colspan="3">教授</td><td colspan="2">教授</td></tr>
</table>

注）1. 記入にあたっては、黒ペンまたは黒ボールペンをご使用ください。
2. 楷書で正確に記入してください。
3. 裏面も必ず記入してください。
4. ※印は記入しないでください。
※筆頭の指導担当者：定年退職時まで当該大学院生を指導する者（自署）
指導責任者：当該大学院生の在学期間全てにおいて指導責任を負う者（自署）

履　歴　書

年	月	学　歴　・　職　歴など（各別にまとめて書く）
		高等学校　卒　業
年	月	免　許　・　資　格
年	月	賞　罰

上記のとおり相違ありません。

年　　月　　日

氏　名　　印

※学歴は高等学校卒業から記入してください。

2025年度
神奈川歯科大学
大学院歯学研究科（博士課程）

整　理　票

受験番号	※
フリガナ	
氏　　名	男・女
出願区分	□ 学内推薦選抜（1期・2期） （神奈川歯科大学卒業者） □ 一般選抜（1期・2期） □ 社会人特別選抜（1期・2期） □ 特待生選抜（1期・2期） □ 外国人留学生選抜（1期・2期）

＊該当する出願区分に☑し、期に○をしてください。

写真貼付欄

縦４cm×横３cm
無背景　脱帽
正面上半身　カラー
３ヶ月以内に撮影のもの

切り取らずに出願のこと

2025年度
神奈川歯科大学
大学院歯学研究科（博士課程）

受　験　票

受験番号	※
フリガナ	
氏　　名	男・女
出願区分	□ 学内推薦選抜（1期・2期） （神奈川歯科大学卒業者） □ 一般選抜（1期・2期） □ 社会人特別選抜（1期・2期） □ 特待生選抜（1期・2期） □ 外国人留学生選抜（1期・2期）

注意事項

1. 氏名、フリガナ、男・女に○をつけてください。
2. 該当する出願区分に☑し、期に○をつけてください。
3. ※欄には記入しないでください。
4. 試験中は本票を携帯してください。
5. 時間割は入試要項を確認してください。

神奈川歯科大学大学院教育研究部
046-822-8826

切り取らずに出願のこと

2025年度
神奈川歯科大学
大学院歯学研究科（博士課程）

入学検定料納付証明票

受験番号	※

のりづけ部分

1．ゆうちょ銀行（郵便局）で入学検定料を納付後
受領した振替払込受付証明書（お客さま用）を、
のりではがれないように貼ってください。

2．「振替払込受付証明書（お客さま用）」に
日附印のないものは無効です。

※受付番号

［社会人特別選抜用］

年　　月　　日

神奈川歯科大学学長　殿

施　設　名：

代表者氏名：　　印

就業（就業見込）証明書

□　現在就業していること

下記の者は　　を証明いたします。

□　　年　　月以降就業する見込であること

記

氏　名

※ □欄に就業または就業見込の区分をチェックしてください。

※受付番号

［社会人特別選抜用］

年　　月　　日

神奈川歯科大学学長　殿

施　設　名：

代表者氏名：　　印

受　験　承　諾　書

下記の者が「神奈川歯科大学大学院歯学研究科」の入学試験を受験することを承諾いたします。

記

氏　名

※

2025 年度　神奈川歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）

資 格 認 定 審 査 申 請 書

年　　月　　日

神奈川歯科大学大学院歯学研究科長　殿

貴大学院歯学研究科博士課程入学を希望します。

ついては、出願資格の認定を受けたく、所定の書類を添えて申請します。

ふりがな			
氏　名			
生年月日	年　　月　　日　（満　　才）	性別	男 ・ 女
ふりがな			
現住所	〒		
電　話	－　　－	携　帯	－　　－
E-mail			

入試区分をご記入ください	出願前に連絡を取った指導教授
	分野 教授

備　考	※

注）1. 記入にあたっては、黒ペンまたは黒ボールペンをご使用ください。
2. 楷書で正確に記入してください。
3. 該当する項目を〇で囲んでください。
4. ※印は記入しないでください。

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

履歴書（資格認定審査用）

年　　月　　日現在

ふりがな			写真を貼る位置 1. 縦 36～40 mm 横 24～30 mm 2. 本人単身胸から上 3. 裏面にのりづけ 4. 裏面に氏名記入
氏　名			
生年月日	年　月　日生　（満　才）	男 ・ 女	
携帯電話番号		E-MAIL	

ふりがな	電話（　　）
現住所〒	—
	FAX　（　　）
	—
ふりがな	電話（　　）
連絡先〒　（現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入）	—
	FAX　（　　）
	—

年	月	学歴･就業歴（各項目ごとにまとめて書く）

記入上の注意　１：記入にあたっては、黒ペンまたは黒ボールペンをご使用ください。

２：楷書で正確に記入してください。

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

年	月	免許・資格

就業歴問合わせ先＊新しいものから記載して下さい。

所属医療機関名：

所属長名：

電話番号:

所属医療機関名：

所属長名：

電話番号:

所属医療機関名：

所属長名：

電話番号:

志望の動機

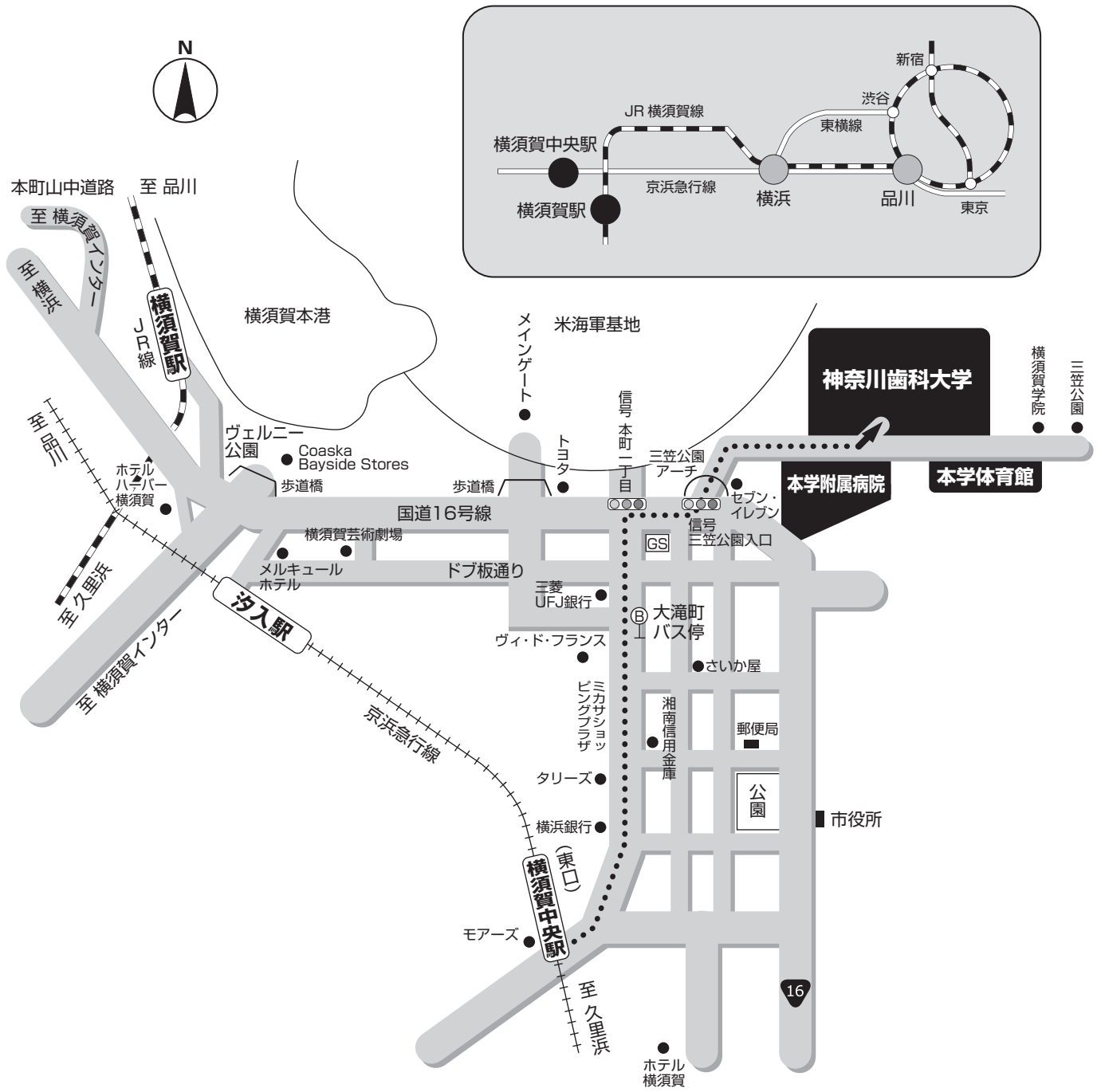
備考

記入上の注意　１：記入にあたっては、黒ペンまたは黒ボールペンをご使用ください。

２：楷書で正確に記入してください。

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

アクセスマップ



本学への交通機関

横浜・東京エリアの方

横浜	新逗子	品川
30分	20分	50分
	（金沢八景駅で乗り換え）	

新幹線・飛行機ご利用の方

新横浜	東京	京急羽田空港
50分	70分	55分
（JR 横浜駅もしくは横浜市営地下鉄上大岡駅で乗り換え）	（品川駅で乗り換え）	

JR ご利用の方

大船	茅ヶ崎
25分	50分
	（大船駅で乗り換え）

京浜急行線　横須賀中央駅

徒歩 10分

JR 横須賀駅

バス乗車5分
バス停「大滝町」
下車徒歩5分

本　　学

入試に関する問い合わせ先
〒238-8580
神奈川県横須賀市稲岡町 82 番地
神奈川歯科大学大学院歯学研究科
大学院教育研究部
Tel：046-822-8826（直通）
URL：https://graduate.kdu.ac.jp/
E-mail：graduate@kdu.ac.jp